
伝統医療における イスラーム性について

カメルーン・バムン王国に生きる伝統医の事例から

田中麻依子

はじめに

本論は、伝統宗教とイスラームが融合した地域である、バムン(Bamoun)王国の一人の伝統医が行う伝統医療を紹介するとともに、この伝統医療に見られるイスラーム性とバムンの伝統性の融合状況について報告するものである。なかでもイスラーム的要素を含む治療法を積極的に用いる伝統医の実践についての資料を中心に提示する。また、これらの資料に加え伝統医の持つ多面的側面について注目していくことで、現代のバムン王国に生きる伝統医の持つ特性についても言及する。

1 調査地と調査対象

調査地はカメルーン中西部ンジモム(Njimom)村のフォングー(Mfongou)街区である。西部州のヌン(Noun)県に位置し、首都ヤウンデ(Yaounde)から車で約4時間半、385キロの距離にある。調

査対象としたのは、このヌン県に広がるバムン王国のフォングー街区に住むンジクムジョア(Njikoumnyoua Mominou)という名の伝統医である。調査期間は2003年7月から9月と2004年1月から2月の延べ4カ月である。調査地フォングー街区のあるンジモム村はバムン王国の王都フンバン(Founban)の北約10キロに位置し、バムン王国建国の際に始祖王ンシャーラ(Nchare Yen)とともに7人の従者たちが降り立った地であることからバムン王国始原の村とされている。

バムン王国は17世紀に起源を持つとされ、フォン(Mfon)である王を頂点とする階層性社会である。バムン王国のイスラーム受容について研究した和崎 [1987] によれば、1917年に王がイスラームに改宗し公式に王国宗教とされたため、イスラームは単なる階級宗教ではなく民衆生活にまで深く浸透した。しかし、それがバムン王国を完全に覆いつくすことはなかったという。

2 伝統医ンジクムジョアと「三つの顔」

ンジクムジョアは2004年現在57歳であり2人の妻との間に12人の子供をもうけている。15歳頃からイスラームを本格的に学び始め、23歳の時にイスラームを人々に教えるようになったという。彼は25歳頃から病気がちであったが、30歳の時に不思議な夢を見たことをきっかけに伝統医としての治療行為を始めた。夢の内容は、死んだ父親が彼の病気に効く薬草の場所や使用方法を教えるというもので、翌朝言われたとおりに薬草を服用したところ病気がたちどころに治ったという。それ以来彼は薬草の知識にイスラームを積極的に取り入れ現在の治療を行うようになった。また彼は、超自然的な能力を持つ伝統医であるとともに、イスラームの敬虔な信者、バムン王国の大臣「コム」の称号所持者、という「三つの顔」を持つ。以下にそれぞれについて述べる。

まず超自然的な能力を持つ伝統医としての顔についてである。彼が伝統医になったきっかけは不思議な夢を見たからだが、この逸話は彼の家族や街区の人々に広く知れわたり、彼自身も積極的に患者に語る。また、彼の息子は夢を見ていないために父親の後を継いで伝統医になることはできないと語っていた。このように彼の持つ超自然的な能力は「彼しか持ち得ない特別な能力」として家族や患者など彼の周囲の人々に認識され、この特異性が彼の治療行為に特別な効力を与えていると考えられている。

次に敬虔なイスラーム信者としての顔についてである。和崎は、バムン王国のなかでは伝統的権威が高い者より低い者の方がイスラームを深く信仰しており政治的位置づけの高いンジモム村では「イスラム的価値に対して敬虔とは言えず、1日5

回の礼拝も遵守しているとは言い難い」と報告している(和崎 [1987]: 224-225)。事実、ンジモム村で現地調査を行った際も、村人や彼の家族で毎日の礼拝や毎週の集団礼拝を熱心に行っている者は少なかった。そういったなかで礼拝やコーランの勉強を毎日欠かさず、メッカへの巡礼をも果たした彼のイスラームへの信仰の深さは村人の目を引いている。患者へのインタビューのなかでも、彼が敬虔なイスラーム信者でありコーランの知識が豊富であることを重要視する声が聞かれた。このように彼はンジモム村において「敬虔な」イスラーム信者であると見られている。また、彼は毎夏1週間ほど北カメルーンやナイジェリアを他の伝統医たちと治療をして回るのだが、その際に香木や数珠などの道具を新しく購入するなど、この機会が彼の治療行為にイスラームの新知識を持ち込むきっかけとなっている。彼自身もコーランの強さを認めており、敬虔なイスラーム信者であることでコーランの持つ強さを自らの治療行為に積極的に取り入れている。

最後にバムン王国における大臣「コム」の称号所持者としての顔についてである。彼は、バムン王国の貴族階級である「ンジ」のなかでもさらに権威のある大臣「コム」の称号を所持している。その「コム」のなかでも、ンジクムジョアの先祖が始祖王ンシャーラの兄弟であり、また筆頭大臣でもあることで「ンジ」・「コム」の称号所持者たちからの尊敬をも集めている。また、村の日常生活のなかでも、日々の挨拶や相槌に他の人々と異なる言葉遣いがある、家にバムン王国建国の歴史を描いた壁画がある、王国ゆかりの庭の鍵を管理する、など、彼の権威は常に村人から意識されている。また彼やその患者は、ンジクムジョアの治療行為の凄さはカメルーン中に知れわたっていると述べるのであるが、実際の治療では患者の約7割がバムン、

約9割がバムン語を使用していたことから、バムン王国の大臣「コム」の称号所持者であることは治療行為に信頼性を付加していると言える。

このようにンジクムジョアの持つ「三つの顔」はともに彼の治療行為を保障する重要な要素となっている。もともと持っていた個人的資質である超自然的能力に加え、宗教的資質であるイスラーム性によって強化された治療行為は、彼の持つ社会的背景、すなわちバムンの範囲で有効である、と言える。なかでもイスラーム性が彼の治療行為に与える影響は大きい。先祖から受け継がれてきた薬草の知識を用いたバムンの伝統的要素を含む治療法を主体とした治療行為に、イスラーム的要素を含む治療法を積極的に取り入れたのは彼であり、このことがバムンの人々がイスラームに対して持つ強さのイメージを彼の治療行為に付加し、その更なる強化へとつなげたからである。

3 ンジクムジョアの伝統医療

今回の調査ではンジクムジョアの治療行為53例、患者73人を直接観察した。1回の治療行為では患者に対して多様な治療法が複数回用いられていた。これらの治療法は、薬草や動物を用いるバムンの伝統的要素を含む治療法と、数珠等を用いたト占やコーランを用いた護符といったイスラーム的要素を含む治療法とに大別できる。患者73人中、付添として直接には治療法を受けなかった10人を除く63人に行われた治療法の内訳が表1である。イスラーム的要素を含む治療法が用いられた患者は全体の86%と主流であると言える。このイスラーム的要素を含む治療法について代表的なものを以下に紹介する。

イスラーム的要素を含む治療法は、治療行為全53例中90回使用され、数珠を用いたト占、護符、

表1 治療法別患者数内訳

治療法	人数	%
イスラーム的要素のみ	27	43
伝統的要素のみ	9	14
両方	27	43
計	63	100

(出所) 直接観察により筆者作成。

表2 イスラーム的要素を含む治療法内訳

治療法	使用回数	%
数珠	42	47
護符	17	19
墨汁	12	13
嗅ぎ薬	6	7
葉	4	4
その他	9	10
計	90	100

(出所) 直接観察により筆者作成。

墨汁等を用いていた(表2)。数珠を用いたト占では、アラビア語テキストをとともに用い患者の運勢等をみる。このアラビア語テキストとは、ンジクムジョアがコーランを書き写したノートのことで、「病気に気をつけろ」「良い仕事につけるだろう」などという文が16章(各章は16項目より成る)に分けて書かれている。使用回数は42回、全体の47%と治療法の約半数を占める。次に護符を用いた治療法であるが、これは主に呪いによる不眠の症状に用いられる。ンジクムジョアが患者の話や症状に合わせて選んだコーランを紙に書き写し(写真1)小さく折りたたんで患者に渡し、患者はそれを護符として常に携帯する。患者はこの護符を携帯することで呪いから身を守ることができるという。使用回数は17回と全体の19%であった。最後に墨汁を用いた治療法であるが、これは主に願掛けに用いられる。患者の叶えたい願いに応じンジクムジョアがコーランを木や鉄の板に墨汁で書き



←1 護符を用いた治療法



↑2 墨汁を用いた治療法

された。薬と鳥毛を混ぜて燻し願いを唱えることでその鳥が女性の上司のもとへ飛んで行き耳元で毎晩「金を払え」と囁くという。イスラーム的要素を含む治療

法では、数珠を用いた卜占と墨汁を用いた治療法の2種類であった。

〔事例2〕 患者(C)は男性である。付添の男性(D)とは友人関係にあり、いずれも首都ヤウンデに在住する。Cはキリスト教徒、Dはムスリムである。Cはバムンではないが、呪いをかけられているということで護身のためにDの紹介で初めてンジクムジョアの治療を受けに来た。Dはンジクムジョアの親戚で、治療に頻繁に訪れるそうである。Cには全部で4種類の治療法が7回使用された。伝統的要素を含む2種類の治療法では、呪いから身を守る効能のある薬の処方や、剃刀で肌に傷をつけ薬を擦り込む治療法、卵に呪いを移し身代わりとして割る治療法が使用された。イスラーム的要素を含む治療法では、護符と墨汁を用いた治療法の2種類であった。護符に呪いをかけた疑いのある人の名前をCが直接書き込み、これを携帯することで呪いから彼の身を守るという。

このようにンジクムジョアの治療行為には伝統的要素、イスラーム的要素を含む治療法がともに患者の病や問題を解決する手段として用いられていた。患者に薬草を処方するように、コーランを書き写した紙を護符として患者にわたす。彼の治療行為においてイスラーム的要素を含む治療法はよく効く薬草と同義であると言える。

写し(写真2)水で洗い流す。同じコーランを紙に書き写し小さく折りたたむ。患者は折りたたんだ紙を歯と唇の間に挿み水で顔を洗い願いごとを唱える。使用回数は12回、全体の13%であった。

4 治療法の実践

ンジクムジョアは治療行為にイスラーム的要素を含む治療法を積極的に使用する。その種類も多様である。こうした治療法的具体例について以下に述べる(表3、表4)。

〔事例1〕 患者(A)は男性である。付添の男性(B)とは友人関係にあり、いずれも首都ヤウンデに在住する。2人ともバムンでキリスト教徒である。Aには結婚を考えている女性がいるが、その女性が裁判に巻き込まれそのため金が欲しいという。Aはその女性の上司になんとか金を融通してもらうため、ンジクムジョアの治療を受けに来た。Aには全部で4種類の治療法が8回使用された。伝統的要素を含む2種類の治療法では、願いを叶える効能のある薬の処方や鳥毛を燻す治療法が使用

表 3 事例 1

(N = ンジクムジョア)

時 間	治療法	治 療 内 容
14 : 26	ト占*	N が A の名前を聞く。
14 : 27		A が1000CFA をノートに挿む。 N が以下の①～②を16回繰り返す。 ① A が N の持つ数珠の玉の一つ触る。 ② A が触った箇所を N がノートに記す。
14 : 33	ト占*	ノートに記した番号を読み上げアラビア語テキストを用い A に説明をする。
14 : 44		N が容器を取り出し以下の①～③を 2 回繰り返す ①容器の中から黒数珠を一握り取り出す。 ②取り出した数珠を「1・2・3・4」と二つずつ数える。 ③数珠を容器に戻し混ぜる。
14 : 47	墨汁*	N がコーランを選び、取り出した木の板に墨汁で書き写す。
14 : 54		小さな紙に同じコーランを書き写す。
15 : 07		書き終えた紙を小さく折りたたみビニールで包み黒糸で巻く。
15 : 14		板に書いた墨汁を水で流し、その水をボトルにつめて A にわたす。
15 : 17	薬草**	N が(A の欲しがっている)薬を探す。
15 : 23		A にナイフを渡し 3 種類の薬を削らせる。
15 : 27	動物**	A に薬を一つまみ入れ混ぜさせる。
15 : 30		さらに鳥の毛を入れ混ぜさせる。
15 : 32	墨汁*	薬の使い方を説明する(燻す)。
15 : 34		鉄の板を取り出す。
15 : 35		コーランを選び鉄の板に墨汁で書き写していく。
15 : 44		N が A に名前を墨汁で鉄の板に書かせる (食事のために一時中断)。
16 : 01	ト占*	コーランをアラビア語で読上げバムン語で A に説明をする。
16 : 10		B が部屋を出て N が再び以下の①～②を18回繰り返す。 ① A が N の持つ数珠の玉の一つ触る。 ② A が触った箇所を N がノートに記す。
16 : 15	ト占*	ノートに記した番号を読み上げアラビア語テキストを用い A に説明をする。
16 : 22		N が容器を取り出し以下の①～③を 7 回繰り返す。 ①容器の中から黒数珠を一握り取り出す。 ②取り出した数珠を「1・2・3・4」と二つずつ数える。 ③数珠を容器に戻し混ぜる。
16 : 27		A が N と部屋を出ていく。

(注) * イスラーム的要素を含む治療法。 ** 伝統的要素を含む治療法。

(出所) 2004年 2 月 6 日の直接観察により筆者作成。

おわりに

ンジクムジョアの行う伝統医療ではイスラーム的要素を含む治療法は強さの象徴として用いられていた。しかし、だからといって彼がイスラームを治療行為の手段としてのみ表層的に捉えている

わけでもない。彼自身はメッカへの巡礼も果たした「敬虔な」イスラーム信者であり、またイスラームがバムン王国に深く浸透している現代において、イスラームの知識を豊富に有することはバムン王国の大臣「コム」にとり必要不可欠な条件なのである。治療行為を行う彼自身の持つ「三つの顔」という多面的側面は、各側面が互いに影響し合い彼

表 4 事例 2

(N = インジクムジョア)

時 間	治療法	治 療 内 容
13 : 17	薬草**	N が C に薬をわたし薬の効能(身を守る)を説明する。
13 : 42	墨汁*	木の板を取り出し墨汁でコーランを書き写す。
14 : 04		N が書き終え, C が人の名前を書いた紙を取り出す。
14 : 05		N が効能を説明する。
14 : 08		C が自分で紙に書いてきた名前を木の板に書き写す。
14 : 15		D が板を持ち外へ出て墨汁を水で流す(N の礼拝のために一時中断)。
14 : 31		D が N に手順を聞きながら準備をする。
	薬草**	D が C の頭・両肩・両肘・両膝・脚の甲・腰に剃刀で傷をつけ卵を用いて水と薬を擦り込む。
14 : 49		D が N に次の治療手順を聞く。
14 : 51		N がコーランを小さい紙に書き写す。
14 : 52	動物**	D が先ほど擦り込みに使用した卵を持ち C とともに部屋の裏の茂みへ行き, D が C に卵をわたす。
14 : 56		D の言う言葉(「この卵が割れたら呪いはなくなる。私はもう呪いに捉えられない」)を C が復唱する。
		C が卵を背後に放り投げ, 卵は地面に落ちて割れる。
14 : 58		C は後ろを振り返らずに N の部屋まで歩いていく。
15 : 05		N は先ほど書いていた紙を小さく折りビニールで包み黒糸で巻く。
15 : 07		N と C, D が話し始める(ここに来るまでに車が 2 回故障したといった話)。
15 : 08		小さく折った紙を C にわたし使用方法を教える。
15 : 08		先ほど墨汁を流した水を D が袋に詰め, N が使用方法を教える。
15 : 09	護符*	N が奥の部屋からコーランを書き写した紙(交通事故から身を守る効能)を持ってきて C に説明をする。
15 : 12		C が自分の名前を書き N と話す。
15 : 16	薬草**	D が N に言われて薬を袋に詰め N が使用方法(生姜と水を入れ温め塩を混ぜて飲む)を教える。
15 : 20	護符*	N が別のコーラン(隣人の敵から身を守る効能)を紙に書き写す。
15 : 30		N が書き終えた紙を C にわたし敵になりそうな人の名をその紙に書くように言う。
15 : 32		C が名前を書き込んだ紙を N が小さく折りビニールで包み黒糸で巻く。
15 : 50		C が 2 万 5000 CFA (5000 CFA × 5) を N にわたす。
16 : 05		イスラームのお祈りをし, ヤウンデまでの旅の安全も祈る。
16 : 10		3 人とも部屋を出る。

(注) * イスラーム的要素を含む治療法。 ** 伝統的要素を含む治療法。

(出所) 2004年2月8日の直接観察により筆者作成。

の治療行為を支えていた。また、彼の行う伝統医療にはバムンの伝統性とイスラーム性が分かち難い形で融合していた。

このような複雑な融合状況にある伝統医療を、その治療内容に加え伝統医の持つ多面的側面についても詳細に分析を行うことで、伝統／イスラームという二項対立では捉えきれない、現代に生きるバムンの持つ世界観を描き出していきたいと考

えている。

〔参考文献〕

和崎春日 [1987] 「アフリカの王権とイスラム都市——イスラム教生活からみたバムン王都の都市人類学——」(和田正平編著『アフリカ——民族学的研究——』同朋舎出版)。

(たなか・まいこ／名古屋大学大学院 文学研究科)